

武漢事務所週刊ニュース (2017.2.4-2017.2.10)

2017年2月7日

外資誘致の“プロジェクト”が早くも忙しい

2月4日、武漢市招商局国外招商処中処長は日本二大銀行の一つであるみずほ銀行(中国)武漢支社を訪問し、林武彦副頭取に招待状を渡して武漢の“招商大使”として招きたいことを伝えた。

“招商大使”を招くことは春節前から、武漢市が推進する外資誘致の革新的な行動であり、于中氏にとってこの春節休暇の“宿題”の一つとなっていた。彼の紹介によると、みずほ銀行を選んだのは前期に行った調査結果に基づくものであるとのこと。資金総額ランキングで、日本は武漢が実際に外資を利用するときの一番の相手国であり、七割の日本上場会社がみずほ銀行と取引があり、イオンなどの有名な企業が武漢へ投資することになったのもみずほ銀行武漢支社を通してのものだった。

武漢市招商局の紹介によると、“招商大使”は今年の外資誘致における重要な役割を担っており、“海外の頭脳”を大いに活用するため、世界中に目を向けて豊かな商業者を招いてこの職を任せると考えており、優れた貢献者には奨励を与えるとのこと。

2017年2月8日

武漢大学がリードして“珞珈一号”2つの星を設計、開発

武漢大学と航天科技集団は2019年に“珞珈一号”衛星を打ち上げる計画があることを六日に発表した。同衛星は世界で初めてレーダー衛星多角度イメージング方法の実験が行われた。

武漢大学がリードして設計開発している“珞珈一号”は01星と02星がある。01星は夜光リモートセンシング技術を搭載しており、重さは約10キロ。現在開発業務はスムーズに行われており、年末頃に打ち上げる予定である。

“珞珈一号 02 星”は武漢大学と航天科技集団が地球・宇宙情報技術協力革新センターと共同設計・開発している5万分の1クラスの測量精度を持つ多角度イメージング新体制レーダー衛星だ。同衛星の設計にはバンド、ビーム、多角度、2基地などのイメージング方式が採用されており、世界初のレーダー衛星多角度イメージング方式の実験を行う。これは中国のレーダー衛星と衛星測量の革新的な発展において重要な意義を持つ。